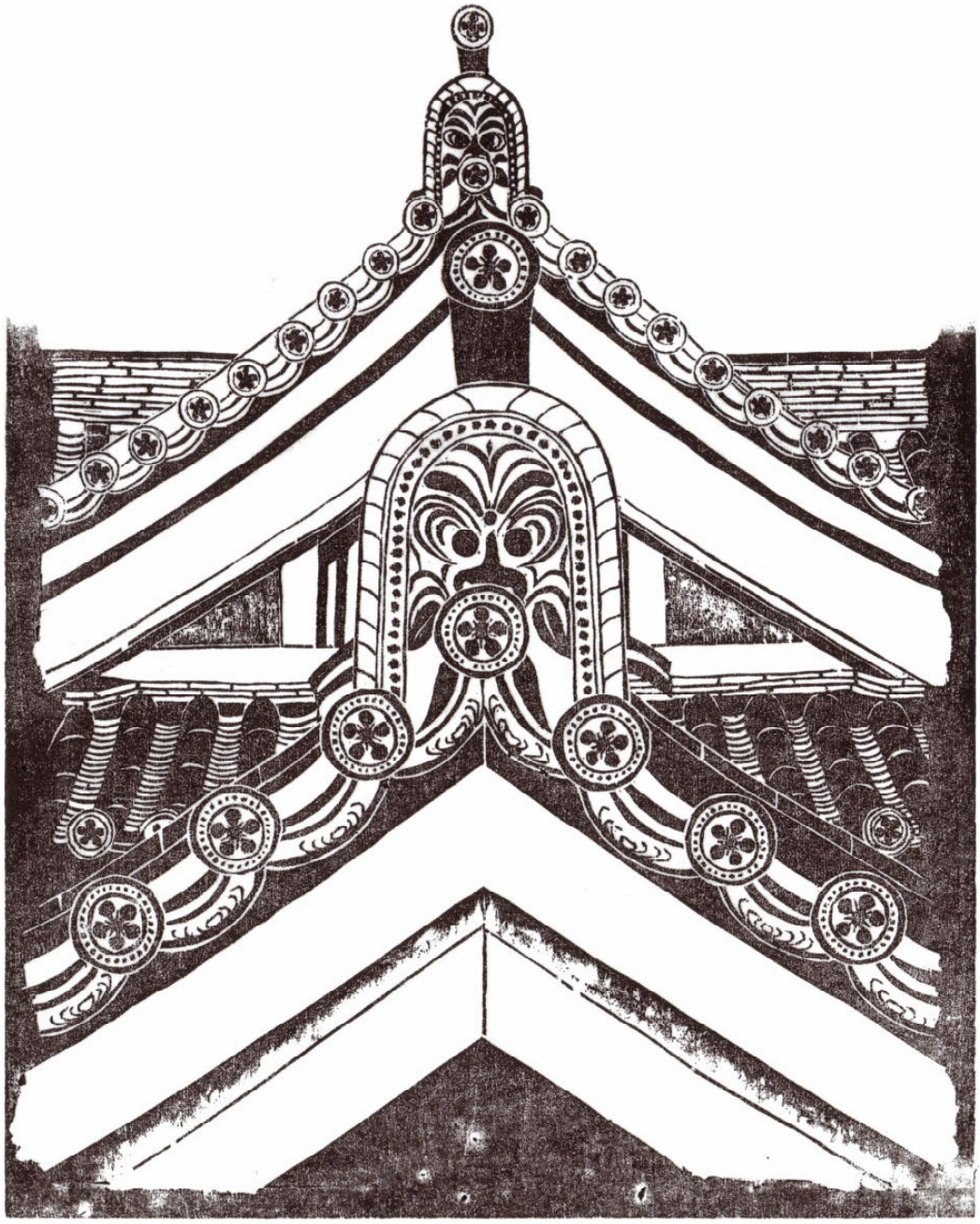
かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314



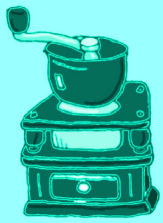
天理高等学校の鬼瓦

おつとめ奉仕者の増員

・一人ひとりが日々に真実を尽す
・布教によるおつとめ奉仕者の増加
・後継者講習会への参加による奉仕者の増加
・おぢばへの伏せ込みひのきしん

立教171年
11月号

談話室



教会長路傍講演に参加して

東悠分教会長　田林久嗣

今日は教会長路傍講演の日だ。小雨降る肌寒い朝、気合を入れて会場の町田駅に向かった。早いもので、あれからもう一年が過ぎたのかと思うと不思議な気分になった。去年は世田谷支部会場の三軒茶屋駅前で30度を超す残暑の中、ジリジリする日差しに汗を拭いながらの路傍講演だったのに、今年は上着を着て丁度良いとは。

それにしても、去年から今年にかけて我が教会で起きた出来事を思い返せば、よくぞここまで来たと、つくづく思うのである。教会の移転に伴う土地探し、諸々の願書や手続き、お運び、近隣住民及び自治会との折衝、神殿普請、引っ越し、そして移転奉告祭。本当に不思議な親神様のお導きと大きな御守護の中、多くの人に助けられながら、無我夢中で過ごした一年だった。お陰様で近隣の方々とも良好な関係を築きつつ、新しい支部にもやっと慣れてきたところで今日を迎えたのだった。

私は本来人前で話すなどと言うことは、大の苦手なのだが…（誰だ、笑っているのは！）。新しい支部での路傍講演デビューでもあり、先生方に注目されているのを感じる中、思い切って駅前を行きかう多くの人々に向って「陽気ぐらしの天理教」の素晴らしさ、心づかいや、貸しもの・借り物の話を松下幸之助さんのエピソードも交えて話させて頂いた（※昭和7年、おぢばに参拝した松下幸之助は、ひのきしん精神に感銘を受け、自らの企業理念に採り入れた。そして、参拝したその日を松下電器産業の創立記念日とした）。話す前は、緊張してどうなるかと心配していたのだが、一に勢いで大きな声で話し始めると、次第に冷静になっていく自分に気が付いた。すると面白いことに通行人の様々な反応が目に入ってきた。何だろうと興味深気に見て行く人。チラッと見ながら通り過ぎて行く人。避ける様に足を速めて通り過ぎて行く人。無視して行く人。残念ながら立ち止まって聞いて下さった方は無く、関係者が聴衆という結果に終わった。しかし、のぼり旗と講演、配布しているパンフレットから、道行く人に「天理教」を少しでも認識してもらい、人類の親の教えに触れて頂ければ、全国で展開した今日の講演は大きな〝にをいがけ〟になったと確信した。

更に、地域活動の活性化が叫ばれる今、自教会の充実を計るのは勿論の事だが、大いなる御縁で移転して来たこの支部（八南支部：町田・八王子・日野）で、単独では出来難い行事や活動に積極的に参加していき、地域に貢献できる教会を目指さなければならないと改めて思った。このことは、系統を越え全教挙げて一致協力し、この教えを広めていかなければならない旬が来ているのではないか、とにかく地域のようぼくがお互い勇気を出して活動していかなければならないと思う。教会長として、その先頭に立って頑張らなければと思いながら帰路についた。

車の窓から優しく手を振って　私は……。

二ヶ月に一度、市防犯協会のパトカー仕様の車に乗って拡声器で注意を呼びかけながら巡回する。こんな内容だ。「下校中の良い子の皆さん、知らない人に声を掛けられても絶対ついて行かないようにしましょう。最近、全国的に子供達をねらった誘拐事件が多発しております。子供達を私達地域の力で守りましょう、只今子供を守るキャ

ンペーン運動中です」と。

ハンドルを握るのは明石市の防犯協会の人、乗るのは地域の防犯員、補導員（警察関係）、私の様な補導委員（教育委員会関係）。徐行しながら、車の左右の窓を全開し手を振りながら下校中の幼小中高生に声を掛ける。「気をつけて帰りよ」「車に注意してな」と様々な声だ。

園児の手をつなぐお母さんにも「ご苦労様」と声を掛ける。お母さんはこちらに「ご苦労様です」と返事が返る。黙っている人も頭を下げてくれる。コース途中に保育園が有る。マイクの声が聞こえてくると可愛い園児が園庭の柵に駆け寄って手を振りながら大歓声だ。うーん、いい気持ちだ。偉くなった感じ。

その高揚した気分に冷たい水を掛けてくれるのは中高生のグループだ。手を振るこちらも何となく恥ずかしいがそれでも仕事だ、「気をつけて帰りよ」と声を掛ける。しかし全く無視でこちらも見ないな……。おい、幼稚園の時のあの純な素直さは何処に行ったんだよと。まあ無理ではありますが。しかし一人で帰っている中学生の中には照れくさそうにペコっと頭を下げる子もいる。そうか、集団ではかっこ悪いと思うのかなあ？ 現代の世相か、思春期の照れかな。親の育て方は関係あるかな？

この呼びかけが役に立っているのだろうか。私はこんな声を聞く。あるお婆さんは「お宅らが廻ってくれるお陰で私のような一人暮らしの者にも何か心強いよ」と言われる。そうだろうなあ。マイクの声は家の中に居てもよく聞こえているから、何かあったら言えるし不審者も警戒して近づかなくなる効果も期待できる。

反対に巡回中くってかかるお爺さんが言う。「あんたらが知らない人に声を掛けられてもというから、子供らがわしがおはようと言っても相手してくれんようになったぞ」と言う。成程なあ……。功罪相半ばか。なかなか難しいものだ。

もうすぐ、また巡回の日がくる。プラスと考えて参加します。

（ひ）

笠岡五人衆四小間劇場

第二回「逃げる鼠」

つづく

年表

皇紀	年号	本部及大教會記事	分教會記事
2558	明治31	○三月神意ヲ奉シテ本部ニ婦人會ヲ起サル（お指圖參照）○六月、本部ニ青年會ヲ起ス事ニ付神意ヲ伺フ、御許シアリ（お指圖參照）○三月、芦津大教會内ニ芦津婦人會ヲ起サル	○六月頃笠岡婦人會起ル
2566	39		○三月教祖二十年祭執行後、笠岡青年會ノ前身日曜會ノ組織成ル
2567	40	○九月、芦津婦人會ノ中ニ報德會ヲ設ケラル	
2568	41	○十一月十一日、明治天皇陛下ニハ陸軍特別大演習御統監ノ爲奈良縣地方ニ行幸アラセラレ其砌橿原神宮ニ御親拜アラセラル、本教ニ於テハ教師七千五百名、婦人會員三千五百名教校第一期別科生四十名、中學校生徒三百名一般信徒凡二万人、丹波市驛附近川原城ニ於テ奉迎送	
2569	42	○一月、天理教養德院ヲ設立セラル（後婦人會ノ經營トナル）○仝月、從來各教會獨立ノ姿ナリシ婦人會ヲ天理教婦人會ノ名目ノ下ニ統一シ部内各教會ノ婦人會ニ請願ヲ以テ支部	

	2570	2571	2572	2573
	43	44	明治45 大正1	大正2
委員部ノ種別ニヨリ設置セシムル事ニ改メラル○八月、大阪北區大火ニ付芦津大教會ヨリ金員ヲ寄贈サレ芦津婦人會ヨリモ七千五百点ノ衣類ヲ寄贈セラレタリ	○一月天理教婦人會芦津支部設置	○一月廿七日、天理教婦人會第一回総會ヲお地場ニテ開催セラル	○本年末ヨリ翌年初頭ニ掛ケ婦人會芦津支部ハ支部役員ヲ部内ニ派シテ巡教セシム、笠岡委員部長（舊長様）ハ九州地方ニ向ハセラル	○六月、天理教婦人會長殿ヨリ本教内一般布教師ニ布教費ヲ下附セラル
		○七月廿七日　天理教婦人會芦津支部笠岡委員部設置、當時會員三百三十五名、委員部長川合豊	○三月十七日笠岡委員部發會式擧行、芦津支部ヨリ支部長様、吉田、立花、宮田ノ三女史及ビ宮田佐藏、吉田恭三郎氏等御來會	○一月大祭後分教會長、舊長及役員等二十四名會合シテ笠岡青年會ノ創設ヲ議シ概則ヲ草ス翌二月月次祭ノ後部内重立チタル人々ヲ召集シ更ニ之ヲ圖ル、滿場一致可決、六月末ニハ笠岡分教會長ヲ総裁トシテ三百二十六名ノ會員ヲ有スル組織成ル（備考、此時ノ青年會ハ今日ノ青年會トハ同名異物ナリ、但シ日曜會ト云ヒ本會ト云ヒ皆今日ノ青年會ノ前身ナリ）○五月婦人會本部ヨリ山澤、喜多、桝井ノ三女史御巡教、井筒支部長隨行セラル、之レ婦人會本部巡教ノ最初ナリ、來聽者八百五十名

2580	2579	2578	2577	2574
9	8	7	6	3
○一月、婦人會本部ニ於テハ天理女學校設立ノ件議決、秋九月仝地均工事ニ着手		○十月、從來各教會任意組織ノ姿ナリシ青年會ヲ婦人會ノ如ク天理教青年會ノ名目ノ下ニ統一シ部内各教會ノ青年會ハ分會、支會ノ種別ニ從ヒ請願ヲ以テ設置セシムル事ニ改メラル		○四月、婦人會芦津支部發會式擧行○九月、歐洲大戰ニ我國モ參加スルニ至リタレバ本部ヨリ軍資金中へ一万圓獻納相成、婦人會ヨリモ出征軍人ニ對シ慰問袋ヲ送ル
	○一月、天理教青年會芦津分會設置			○七月、笠岡青年會發會式擧行、總裁上原分教會長ノ戊申詔書ノ奉讀、各方面ノ祝辭アリ式後選拔辯士ノ講演會アリテ盛會ヲ極ム、是ヨリ先六月々次祭後上原總裁ヲ始メ分教會役員、部内重立チタル人々三十余名出席、會長（岡本久作）、會長事務取扱（淺野彌三郎）、幹事（各地ニ互リ十四名）、會計（二名）、書記（二名）等ノ任命アリ○九月三十日、婦人會本部ヨリ増井、松村、桝井ノ三女史御巡教アリ
	○一月、天理教本部青年會ニ統一セラレタルニ付從來ノ笠岡青年會ヲ解散ス○十月、天理教青年會芦津分會笠岡支會ノ設立ヲ請願シ仝月廿五日認可、當時會員二百二十名、支會長上原伊助		○十月九日婦人會本部ヨリ巡回講演アリ、講師宮森、井筒、諸井ノ三女史御來會	○三月廿三日婦人會本部ヨリ増井、板倉、梶本三女史ノ御來會御講話アリ

	2584	2583	2582	2581
	13	12	11	10
	○二月十七日、天理外國語學校設立認可セラル○仝日奈良盲學校ヲ本教ノ經營ニ移管ス、		○七月八日、天理女學校設置ノ件文部大臣ヨリ認可アリタリ、○十月、青年會本部最初ノ大事業トシテ天理教館ヲ建築シ本部ニ献納スベク昨秋來工事中ノ處稍完成シ第四回総會ヲ此處ニ開ク、	
	○二月二十三日、桝井、鴻田、梶本、三女史婦人會本部ヨリ御巡教アリ○十月二十五日青年會福山支會設置、支會長田中正一	○二月笠岡委員部長ヲ上原光様ニ變更セラル	○一月五日、從來毎月五日夕勤後ノ婦人小會（オ話ノ稽古會）ヲ改メテ晝間開催スル事トシ同時ニ御神樂勤ヲモ勤ムル事トセリ、○三月二十一日婦人會本部ヨリ桝井、篠森、山田三女史ノ御巡教アリ○十月十九日青年會笠岡支會發會式ヲ擧行ス	○三月十五日婦人會本部御巡教、松村、鴻田清水三女史御來講○四月十九日婦人會笠岡委員部第一回総會、當時身上重態ナリシ第二代分教會長上原伊助様ニハ病ヲ冒シテ教壇ニ立タレ一場ノ訓話ヲセラル會者一同感激ノ涙ニ暮レヌ○六月三日笠岡分教會長兼青年會笠岡支會長上原伊助様御歸幽、○七月二十五日後任會長上原繁雄様支會長ヲ兼ヌル事ヲ御認可アリ、○八月六日青年會本部ヨリ最初ノ御巡教、村田、梅本、吉田ノ三氏御來笠
	○一月二十七日婦人會福山委員部設置委員部長田中多賀○三月二十七日青年會雲東支會設			

2588	2587	2586	2585
3	昭2	昭15 1	大14
○三月、天理外國語學校内ニ天理女子學院ヲ設立ス			○四月十日、天理幼稚園開園、以上ノ内、外語ハ青年會、其他ハ婦人會ノ經營ニ屬ス、○十二月、天理教廳印刷所落成、工費二十万圓ト稱セラル、青年會ノ手ニテ建築本部ヘ献納
	○二月十八日、青年會本部ヨリ增野、桝井ノ両氏及ビ教務支廳ヨリ畑林書記隨行御巡教アリ、○四月十六日婦人會神邊委員部發會式擧行○十月十三日青年會神邊支會發會式擧行	○六月十二日、青年會本部ヨリ喜多、山田清山澤ノ三氏御巡教アリ	置支會長門脇一教○仝日婦人會本部ニ於テ幹部講習會開催笠岡委員部ヨリ七名出席、○四月総會ヲ兼ネ本部ノ例ニ倣ヒ講習會ヲ開催ス○九月十九日婦人會玉島委員部設置委員部長岡崎ユキヨ○仝月二十五日、婦人會雲東委員部設置委員部長門脇ハツ○仝日青年會玉島支會設置支會長岡崎讓平○十月十六日青年會福山支會發會式擧行○十月三十一日婦人會神邊委員部設置委員部長岸本イシ○十一月二日青年會神邊支會設置支會長岸本龜三郎○仝月二十五日芦津支部ヨリ立花、井筒両女史御巡教アリ○十二月十日福山委員部發會式擧行
	一月、雜誌「無垢華」ヲ青年會笠岡支會機關紙トナス（同誌ハ昭和二年四月創刊、笠岡分教會内其社藤井喜代治氏個人經營ニ係ルモノ）○二月二十八日婦人會本部巡回講演アリ、鴻田、西村両女史御來笠、○四月十七日婦人會		

	2589	2590
	4	5
	○四月、婦人會本部ハ創立二十週年記念大會ヲ開催ス	
玉島委員部發會式擧行、○五月十九日、婦人會青年會聯合大會ヲ開キ教勢倍加ノ運動ヲ起シテ五十年祭ニ對スル準備、教是實現ノ前哨戰ノ氣勢ヲ擧グ、此時「無垢華」ハ記念号ヲ發刊セリ、○五月、青年會雲東支會、婦人會雲東委員部發會式擧行	○四月當笠岡委員部ノ総會ヲ開催シ會費完納者ニ記念扇子ヲ配布ス○九月二十九日雲東支教會改稱ニ伴ヒ婦人會島根委員部青年會島根支會ト改稱ス○十月、當笠岡委員部ノ婦人團体ハ小田郡婦人會聯合會ヘ加盟、婦人會地方的進出ノ初メナリ○十一月青年會機關紙「無垢華」ヲ「國ノ柱」ト改題シ分教會機關紙トナス	○七月十二日青年會玉島支會長岡崎譲平氏逝去、○九月十四日當委員部委員上原くにゑ氏（會長夫人）婦人會高屋委員部設置促進ノ爲高屋支教會ニ出張、○十月十九日婦人會笠岡委員部創立滿二十週年及青年會笠岡支會創立滿十週年ニ相當スルニ付聯合記念総會ヲ開催シ記念品トシテ本誌「つばさ」ヲ一般會員ニ配付ス

○婦人會笠岡委員部會員數（昭和五年九月末現在、會期滿了者ヲ含ム）

笠岡直　七八〇名、福山、四〇七名、玉島二七七名、島根、三五〇名、

神邊三六七名、　合計二、一八一名（外ニ手續中一九名）

○青年會笠岡支會々員數（仝上）

笠岡直　五七六名、福山二七九名、島根二二九名、玉島二二〇名、

神邊二六一名　合計一、五六五名

昭和五年十月十五日印刷
昭和五年十月十九日發行

岡山縣小田郡笠岡町大字笠岡五〇七七
編輯兼印刷發行人　藤井喜代治
岡山縣後月郡井原町一〇八七
印刷所　合資會社柳本商店印刷部
岡山縣小田郡笠岡町大字笠岡五〇七七
發行所　天理教笠岡分教會出版部

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます
親神様には「月日にはにんけんはじめかけたのわ よふきゆさんがみたいゆへから」とこの世と人間世界をお創造（はじめ）め下されただけでなく 常に温かくお見守り下さり お育て下さいます御守護御慈愛の程は誠に有難く存じます 加えて旬刻限の到来を待ってこの世の表にお現れになり 万一切をお説き明かし下さり陽気ぐらしへとお導き下さいます事は誠に勿体ない極みでございます 私共は日々御守護を感じながら 喜びと感謝の心一杯に結構に生活（くら）させて頂いております中に少しでも御恩に報いたいものと 朝夕に御礼申し上げつつ世界一列救けたいとの親心にお応えするべくたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております 特にこの月二十六日は教祖を月日の社とお定めになりこの道をお始め下された立て 大祭に合わせ当笠岡におきまして別席ひのきしん団参を実施すべく募集の上にも余念はございません
その中当教会に於きましても理のお許しを戴いて秋の大祭を執り行うべく 只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集い 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお縋りする皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて本日は世話人島村廣義先生にお越し頂いております 後程時旬に当たってのおぢばの声をお聞かせ頂きますので それを指針としてこれからの成人の歩みを進めて行く所存でございます 又三年後の立教百七十四年には創立百二十周年を迎えることとなり 十一月三十日には記念祭を執り行なわせて頂きます 記念祭に向けての成人の歩みは来年より始めさせて頂きますが 歩みをより確かなものにする為にも 本年残された二ヶ月余り 年頭の心定め完遂の思いを更に深めたすけ一条に邁進させて頂く覚悟でございます
何卒親神様には旬々にお聞かせ頂く親の声を頼りにたすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 一人一人の成人の歩みをより早めてお望み下さる神人和楽の陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌十月号、「道柳」より転載
▽今回の課題は「月」、選八十一句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳詠　川島郷分教会前会長　香取敏子

月毎のおぢばがえりを生きがいに

▼短歌　東悠分教会　田林（ふみ）美智子

赤とんぼ遥かなる日の文出でて
思いはめぐるふる里の友
コスモスの窓辺に揺れても母の亡き
居間には時の止まりたるまゝ

▼表紙の版画　東城分教会長　横山逸郎氏

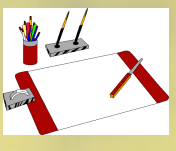
▼4コマ漫画　大教会　上原元子さん

・原・稿・募・集・

内　容　①小随筆　②教会・布教所の独自の活動の紹介　③俳句・和歌・川柳　④教会行事開催後の報告記事 等々

字　数　１０００字前後（８００字～１２００字）題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は１句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@yahoo.co.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

後期　立教171年10月19日終講
稲倉　北川祥江
亀田山　新良佳永

◎本部食堂ひのきしん

自　立教171年10月1日
至　立教171年10月15日
陽實　下宮真治

訃報

佐藤ミツコ姉
久福分教会前会長
九月二十五日出直されました。
享年　九十三才

今年、当教会恒例の少年会お泊まり会の折、公園で花火を楽しんでいる最中、「打ち上げ花火は止めてもらいたい」と水を差してきた。そんなに長い間ではないし、子供が喜んでいるのに何と大人げないと思いつつ、線香花火ぐらいにして早めに切り上げた。

最近の人は、自分にとって都合の悪いことは少しも譲らない自己主張の強い人間が多い様に思う。又、オートロックマンション住まいのように個人を守り、閉鎖的生活様式にだんだんなりつつある。その中で、DVや児童、老人の虐待でたすけを求める声なき声が潜んでいる場合がある。

そうした現代社会にあって「他の人々と共に喜び、共に楽しむ＝陽気ぐらし」を伝えてゆくことは一見、至難に近いように思える。折しも私は、昨年十二月から前任者より身上を理由に後任をと懇願されて民生児童委員を引き受けた。主な仕事は、定期的な独居老人の見守り、安否の確認や担当地区の生活上種々の相談などで、行政とのパイプ役となることである。

今まで私は、相手を傷つけないよう、そっとしておくことが思いやりだとお嬢さんのようなことを考えていたが、垣根を越えて見える立場の者が、教祖の道具衆の自覚の基に本当の思いやりをもって、まだ見えぬ課題に「底抜けの親切」をモットーに、もっと、もっと、おたすけに取り組むゼッコウのチャンスだと考えている。

（え）